

夏まるかじりツアー

8月20日(木) ~ 8月22日(土)

IN 国立曽爾青少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設向け出発	レクリエーション大会	ナイトハイク
2日目	野外炊飯	グループタイム	キャンプファイヤー
3日目	清掃・工作	施設を出発・解散	

一日目： 生憎朝から雨が降り三日間の天候もあまり良くない予報でしたが、尼崎駅に集まったメンバーはとても元気で、雨を吹き飛ばすぐらい賑やかなスタートとなりました。施設に到着する頃には雨が上がり、雨雲も消えていました。しかし川遊びを予定していた川は濁流となっていた為、川遊びを断念しレクリエーション大会を行いました。最初こそグループ対抗戦という形に戸惑いが見られましたが、同じゲームを繰り返すことでルールを覚えたり、勝ち方に気づいたり、ゲーム中や休憩中も自然とグループで集まり作戦を考えていました。グループにまとまりがでてくると全体の集合や整列も見違えるほど速くなり、たくさんのゲームを楽しむことが出来ました。その後は入浴、夕食を済ませ、ナイトハイクへ出掛けました。懐中電灯を途中で消し、まわりの音を聞いたり、夜の景色をじっくり見たり、夜にしか感じるここのできない自然を堪能しました。



二日目： 朝早くから楽しそうな笑い声が聞こえてきました。活動の準備や朝食を済ませ、早速野外炊飯場へ出発しました。かまど、お米、カレーと係に分かれ作っていきま。かまど係はまき組みから着火、火の調節など熱い火の前で汗をかきながらも必死に風を送り続けていました。お米係はお米をととても丁寧に洗い、水の量も何度も確認しながら計っていました。カレー係はピーラーや包丁のコツをつかみ、硬い人参も小さく切り分けていました。お米、カレー係は一通り仕事が終わると、かまど係のお手伝いとして枝を拾うなどできることを探してみんなが動き回っていました。お味の方は「美味しい！」と頬張るグループもあれば、「ん？なんか違う気がする。」というグループもありましたが、お腹いっぱい完食しました。その後ハイキングの予定でしたが、タイミング悪く雨が降り出しグループタイムに変更しました。夕食時には外に霧が出ており、いつ雨が降り出してもおかしくない空模様でした。しかし入浴を済ませている間に霧が晴れ、みんな大喜びでキャンプファイヤーが始まりました。ファイヤーではリーダーが中心となり、ダンスやゲームを楽しみました。リーダーの一言一言に大きなリアクションがあり、キャンプ中一番の盛り上がりでした。終わる頃には満点の星空が広がっており、みんなで星空を見上げながらファイヤーの余韻に浸りました。

三日目： チェックアウトの時間が早いこともあり慌ただしい朝でしたが、二日間の疲れも見せず慣れた手つきで布団やシーツを畳んでいました。グループによって片付けや清掃のスピードに差はありましたが、速いグループが率先して手伝い、時間通りに大掃除を終えることが出来ました。そこからはゆっくりと時間を掛け、思い出工作の焼き板をしました。木を磨き、ススを落としたり、三日間の思い出を焼き板に描いていきます。どのグループも円になり楽しそうに話しながら作っており、それぞれのグループのメンバーにしか分からない思い出がたくさんできたようでした。三日間お世話になった食堂の方や施設に感謝の気持ちを伝え、退所式までの時間は各々のんびりと過ごしました。帰りのバスはみんな疲れて寝てしまうかなと思っていましたが、ほとんどのメンバーが起きており、尼崎駅に到着するまでDVDを楽しんだり、友達と話したり最後まで賑やかなキャンプとなりました。

<キャンプ総括>

今年の『夏まるかじりツアー』はなかなか天候に恵まれず、プログラム変更が相次ぎました。しかし、そんな状況でもどのプログラムも大盛り上がりで楽しむことが出来ました。それは今回のメンバーが“楽しみを見つける力”を常に発揮し、どんな状況でも自分で楽しい時間を作り出していました。また、プログラムの内容以上に誰とやるかが大切だということがよく表れたキャンプでした。ナイトハイク、野外炊飯、キャンプファイヤーなどのプログラムと同じくらい、食事中や部屋での時間に楽しそうな笑い声が聞こえてきました。自分で楽しい時間を作り出し、それを一緒に楽しめる友達がいたからこそ、雨を吹き飛ばす程の充実したキャンプになったと思います。これからもどんな状況でも楽しみを見つけ、乗り越えていってほしいです。(生本 ひろみ)